

第360回 昭和の森自然観察会

冬の植物の過ごし方

梅宮玲子(市原市)

日 時：2022年2月13日(日) 10時から12時 天気:雨

参加者：17名(大人9名、子ども3名)指導員4名 他1名

担当指導員：武田宏子・玉川弘幸・梅宮玲子

重く垂れこめた雲の下、最初に参加者全員に雨が降った場合中止にするか、会議室が借りられたらそこで、座学をしたいかどうか、意見を聞いてみました。開始時刻10時にはすでにポツポツ雨が降り始めていましたが、せっかく来たのだから、勉強したいという要望が大多数であったので、3班に分かれて「冬の植物の過ごし方」の観察会を開始しました。

アスレチック広場の斜面付近、ニガキの葉痕からスタート。次にハクウンボクの先端の皮が「失敗したセロテープ」(参加者の感想)のように一年生の枝がめくれている。落ち葉を拾って裸芽にかぶせてみて、葉柄内芽になって、冬芽を保護していた模様。また、近くの別の木の洞にハクウンボクの実が、他の種と糞?といっしょに入っているのを、観察。ハクウンボクの種はヤマガラがあちこち保存食としてここに隠したのかもしれない・・・。

ハクモクレンの白銀色の毛皮に触れ、大きな頂芽の側の予備芽の役割について、また枝にある芽鱗痕をみんなで数えてみて、4年目以上は芽鱗痕が不明。アジサイの裸芽をみていると、たまたま枝にヌルデノミミフシが引っかかっていたので、割ってみることにしました。すでにヌルデシロアブラムシは出た後のせいいか黒くはなりませんでした。

だんだん雨粒が強くなってきたので、管理事務所の会議室に歩きながら移動しました。途中、各班あちこち観察しながら11時過ぎに会議室に合流。

武田指導員が今日みた冬芽について、参加者に質問。毛皮タイプ、重ね着タイプ、裸タイプに仕分けしながら白板に書き出しました。外でみる予定だったトチノキ、ハリエンジュなどの資料などは回覧してみもらいました。

参加者の感想は、冬芽の中に花や葉がつまっていることにびっくりしました。花にばかり目がいっていたけれど、地味だと思っていた冬芽にいろいろな発見があった。楽しかった等々。

雨の影響でイレギュラーな対応になりましたが、おもいのほか充実した観察会になりました。



雨のため途中から会議室で座学に変更